

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570800203		
法人名	社会医療法人 暁星会		
事業所名	グループホーム 並木 クオーレ館		
所在地	宮崎県西都市大字下三財8124番地8		
自己評価作成日	令和4年12月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	令和5年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同法人老健施設と併設しており令和2年度より1ユニット増設し2ユニットとなった。施設周辺に住宅はなく訪問での交流が少なく今回コロナ禍により面会や外出はもちろん地域交流が困難な状況にあり、地域の行事や学校の行事なども中止が相次ぎ利用者にかかるストレスを軽減するよう日々ケアを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

系列に医療機関や老人保健施設、在宅福祉部門があり、相互の連携を図りながら、医療・福祉の拠点として地域の中に根ざした活動を行っている。令和2年度より「クオーレ館」が増設され、「アモーレ館」との2ユニット体制になった。職員は業務優先ではなく、「その人のペース」を合言葉として、入居者に合わせた支援に取り組んでいる。また、コロナ禍での外出支援が難しい状況ではあったが、入居者の要望に応じて買物や自宅へのドライブなど可能な範囲で行ってきている。医療面では、系列の医療機関の協力もあり、迅速な対応が可能であり、入居者や家族の安心にもつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については前々回の外部評価にて定期的に見直すものとアドバイスをいただきスタッフと話し合いを行い 前回理念を変更した。今回異動に主任が変わり 今回も見直しをしていく予定である。	「個々の尊厳を大切にしながら、その人らしくなじみの地域で安心して暮らせるホーム」を2ユニット統一理念としている。理念をホーム内に掲示するとともに、職員個人の目標設定も行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	特定の方になるが日用品の買い物等を個別で行っている	コロナ禍ではあったが、アルツハイマー月間(9月)に商店街の一角で入居者の作品展示を行ったり、オレンジカフェに管理者が出向きグループホームや認知症について地域の方に話す機会を持ったりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により電話等で情報の収集を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により実施できず現状の報告のみ書面で推進委員に送っている。	今年度は全て文章による開催であり、現状報告を行うことが主となっている。文章は委員となっている方たち全員への配布はされておらず、意見や要望も上がりにくい状況である。	会議資料の工夫(行事の様子、事故報告、意見・要望欄をつくるなど)を行い、現状を理解して頂くことで、委員からの意見聴取を図り、サービス向上に繋げることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	上記の現状報告の際に短時間ではあるが情報の収集を行っている。行政には電話での確認を行っている。	市の担当者に感染症対応や事故報告の相談やアドバイスを頂いている。また、運営推進会議委員にもなって頂いており、日頃から情報交換が行いやすく、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	検討会は少人数にてと行うも内容としては薄く 法人の研修をそのまま遠研修として行っている。	法人の身体拘束委員会や内部研修を定期的に行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。委員会が年2回「虐待の芽チェックリスト」を全職員に実施し、日頃のケアの振り返りを行っている。その結果は公表され、課題を明確にし実践に活用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記とち同様消極的である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフ等は準備はしているが十分に説明できる程の知識に達していない為、包括支援センター等に相談・連携に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書及び重要事項説明書にて説明は行っており 改正等においては変更前に計画説明の際や面会の際に口頭での説明及び書面での同意をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に運営推進会議の議事録等の開示や意見箱の設置はしているがあまり活用できていないのが現実である。意見や要望などは聞きやすい環境にはしていると思う。	コロナ禍で家族との接点が少ない状況のため、介護計画書作成時に電話での聞き取りを丁寧に行なっている。出された意見に対しては介護計画上に反映したり、スタッフ間で話し合いを持ち、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや人事考課にて意見を聞き入れやすい環境作りを努めており 変更できることはスタッフと検討し行っている。	管理者は職員と業務を共に行いながら意見を聞いたり、必要時には個別での面談を行ってもいる。職員の意見により、行事食の提供方法を変更するなど、可能な範囲で対応できることは行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回の人事考課にて 各スタッフの目標や要望等を確認し働きやすくなるよう努力し調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に参加しているが中止が多く書面での伝達が多い 外部研修はほぼ参加なし		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍にて交流の場が極めて少ない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に際に家族により本人の生い立ちや生活歴を確認し安心して過ごせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話での連絡を密に行っているが不十分である。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族のニーズを見極め本人のホームでの生活についてのメリットデメリットを説明し検討をしてもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の師として敬い、利用者本位のケアを提供し、共に暮らすという気持ちで接し信頼関係を構築するよう心掛けているがスタッフの接遇については随時指導している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限により家族との交流が少なく家族に対しては電話などでの連絡が中心となっており利用者・家族にとってストレスになっている状況であった。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限の中にて状況に応じての面会を実施していたが知人などの面会は見合わせている状況	家族との面会は感染状況をみながらの対応であり、緩和時には外窓から居室に入って面会をして頂くこともあった。また、散髪や買物に出かけた帰りに自宅に寄り、家族との触れ合いを持たれる方もいた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングや居室での交流について制限はせず対応している。リビングにおいてはテーブルやソファなどの位置を考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会制限により退居後や入院などについて電話での確認が多かった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々のペースにあわせケアを行っており 無理強いはずりゆっくりと生活できるよう支援している。	記録には、上手く自分の思いを表現できない入居者もいるため、小さな変化や発語を見逃さず、入居者のそのままの言葉や動作を分かりやすく書くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴をもとに対話し 今までの生活観や現状の不安や問題点等を本人との交流を通して把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースにあわせ 利用者間でのトラブルがなく共同生活が円滑に行えるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当の介護職員が事前にカンファレンス用紙を作成 部署ミーティングの際に担当者会議を実施しその内容をもとに介護計画を作成している。	家族や介護職員からの意見を基に、「安心して生活できる」ことを大切に介護計画を作成している。日々の記録が介護計画に沿った内容になるよう工夫もされている。クオーレ館では電子機器媒体を導入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子機器媒体を使用し、日々のケース記録並びに隔日の業務日誌等にて、各入居者の日々の暮らしと処遇の実際を把握し、継続的な実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズや問題等についての対応等については家族に説明を行っている。要望等について柔軟に対応できるようスタッフ間で協議し対処するよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々のニーズに合わせ安心して生活できるケアに努めているが社会資源の把握は行っているが活用とまでは至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関について本人のかかりつけ医を利用しており 急変時や病状悪化等の際は委託契約をしている同法人の訪問看護と連携し医療機関との連携を図っている。	同法人の医療機関がかかりつけ医であり、月2回の往診、緊急時の対応も行って頂いている。訪問看護との連携もとれている。専門医の受診には、状況に応じて家族や職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携を図っており 月二回の定期訪問を実施し状態の把握を行っており 急変時の際など24時間対応にて連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会制限にて電話での状況確認が多く 退院の際は本人家族が安心できるよう医療機関・家族に対し密に連絡を取り合って特に家族に対しては介護計画についてわかりやすく説明を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期についての指針の説明及び家族の意向を確認し同意をもらっている。また終末期に対しては医療機関と連携し具体的な部分も検討し対応している。	入居者、家族の希望があれば看取りを行う方向で検討している。看取りを行った実績もある。医療的対応を要する場合には、系列の医療機関や老人保健施設との連携を図り、話し合いを持ちながら方針を共有し、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルにて対応はしているが定期的な訓練等はしておらず 状況に応じた対処は指示している。入居時や状態変化の際に急変時や終末期における意向確認は行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練避難訓練を予定はしているが現在まだ一回の実施に終わっている。	法人内の協力体制を取りながら、年2回の訓練を実施している。委託業者による設備点検(年2回)を行い、法人内で備蓄品も揃えている。さらにホームとして、必要な物品の検討を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇についてその都度指導をし人事考課の際に繰り返し指導を行っている。また法人内の身体拘束等適正化検討委員会にて定期的に虐待の芽チェックリストを継続実施している。	職員は業務優先にせず、「その人のペース」を合言葉として、入居者に合わせた支援を基本にしている。排泄時はさりげない声かけで誘導するなどプライバシーに配慮した支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴を基本とし本人とゆっくり話せるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主導となりがちな業務を明確化せず、基本的には「その人のペース」を合言葉として入居者に合わせて支援していくよう努めている。また、それに反している場合はミーティングで提言し改善努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などは本人に確認して準備している。理美容についても確認できる利用者には相談し実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム内ではご飯とスープ類のみの調理であり現在はスタッフが調理をしており下膳やお盆拭きを利用者に依頼している。	系列の老人保健施設から食事提供(主菜、副菜)があり、ホームではご飯と汁物を各ユニットで調理している。職員の提案もあり、行事食や畑の収穫がある時には、入居者と一緒に調理を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂食等における定期的なアセスメントを基に、健康やその人の嗜好に満足いかれるよう支援している。必要時にインアウトチェックを実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的に毎食後、居室洗面所にて自立支援を前提に支援を実践している。また、口腔機能における状態悪化時等は、歯科診療との連携も図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつは最終手段と捉えている。併せて、トイレ場所への見当識支援や排泄リズムに応じたさり気無い誘導方法の支援徹底を図っている。また、汚染時等での自尊心を傷つけない支援も大切にしている。	トイレでの排泄を基本とし、入居者個々の排泄パターンに沿った誘導を行っている。夜間はパットの種類を変えたり、ポータブルトイレを使用するなどして、安眠できる環境を大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄日誌に基づき、排便コントロールを実践している。緩下剤を服用された場合は、失敗を防ぐよう服用後の行動焦点化をチームケアで展開している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	完全に個別での対応を原則実施としている。入居者の特性に合わせて時間帯や曜日にも柔軟的に実施しているが、マンパワーやスタッフの性別における勤務形態等の観点から、完全な個別ケアには至っていない。	入浴は1対1で、入居者のペースに合わせて行っている。週2回の入浴であるが、入居者の状況による柔軟な対応も可能である。クオーレ館には、リフト浴が設置されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠を目指した個々の就寝リズムやその環境をチームケアでアプローチしている。入眠後の環境配慮や中途覚醒時での処遇やケア方法も周知し尽力している。場合により「眠りスキャン」も個別的に導入している。現在4台導入		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方依頼などは看護スタッフが管理し、内服はスタッフ管理にて服用している。誤薬防止の為、変更や追加があった際はカルテ記載や申し送りを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な作業(洗濯物畳み等)を一緒にしたりゴミ捨て等を行っている。レクについては季節ごとの飾り作り等行い興味を持った利用者に分担し行っているが消極的な利用者に対しての代替的なレクメニューが乏しい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望が強い方 不穏な方については散歩やドライブにて気分転換を図っている。本人の希望を組んでの外出は現在行っておらず季節に応じて花見等を行っている。コロナ禍により比べ回数は少ない。	コロナ禍であり、以前のような外出支援には至っていないが、自宅までのドライブや、個別の買物に出かけている。また、ホーム内の畑で野菜づくりを行い、収穫したものを調理することもあった。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のもとに買い物等にご使用されている。そのための小口現金としての預かり金は出納担当者が厳重に管理し、使用明細等は毎月家族にお伝えしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的なお電話や電子機器(タブレット端末)での間接的支援を展開し、毎月「〇月の様子」と題して写真と文字入りの個別便りを家族に郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快となる刺激を回避するようチームとして取り組んでいる。音は職員の声も含む雑音や不快音を解除し、排泄物等の不快な匂いの回避、清潔感ある広さと空調管理に努めているが、空調管理や斜光等課題も多い。	入居者が自由に動けて、くつろげる環境であるよう、ソファや椅子の配置を工夫し、居心地のよい空間となっている。感染対応も行い、換気を定期的に行うなど安全に過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや植物、その他の家具の配置は入居者個々の集合体であることを自覚し、その時々相互的特性に応じて模様替え等を行っている。また、ソフト面として個別対応に合わせた職員の介入も大事にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者個々にとって「寝る部屋」「寛げる部屋」等の特性があるため、それに応じた馴染みや愛着物を設えている。また、家族が来訪した際により良い居場所となることも意識化して取り組んでいる。	居室は入居者が過ごしやすい環境であることを大切に物品の配置がされている。居室でいつでもパソコンで囲碁が出来るようにしている入居者もいる。家族の写真などを飾られている方も多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の日課において、「できること」「わかること」を共同で行えるよう取り組んでいる。例えば、一緒に調理や掃除、洗濯物を干したり畳んだりする。等		